

# システムアプローチを活用した 小学校社会科地理的分野の授業開発

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

沼澤 友希乃

さまざまな要素が極めて複雑に絡み合った時代の課題解決を目指すには、事象を構成する要素間の「相互関係」を適切に理解する力を、子どもたちが幼少期から段階的に身につけていく必要がある。そこで本研究では、小学校社会科地理的分野を事例に、諸要素間の繋がりを全体的な「システム」として把握する方法論である「システムアプローチ」を活用した授業開発を行なった。その結果、『関係』と『構造』の可視化」過程（ステップ1）において、多くのグループが授業で取り上げた内容をもとに2～3の要素間の単純な繋がりを線形的に描くことはできた一方、因果関係など複雑な繋がり方にまでは到達しなかった。他方、「将来予測・解決策の導出」過程（ステップ2）では、一部のグループがレバレッジポイントを見つけ出し、多角的に社会的事象の課題解決策を話し合うことができていたことから、システムアプローチの有用性が小学校段階でも一定程度示されたと結論づけた。ただし、システムアプローチによって個人個人がどの程度内容知を身につけたのかまでは言及できなかったため、今後の検討課題としたい。